




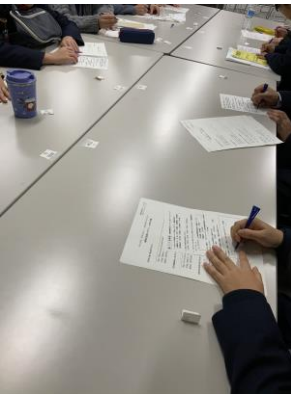
## 第4分科会

### 「世界と話そう 言葉を越えたその先へ！」

- 担当：ミチコ ヨシノ（山形県国際交流員/アメリカ出身）、張 輝（チョウ キ、山形県国際交流員/中国出身）  
崔 雪熙（チェ ソリ、山形県国際交流員/韓国出身）、土屋 紗都子（山形県国際交流室）
- 分科会のねらい・目的：
  - ・言葉が通じなくても、コミュニケーションができること。文化を含めて相手を理解すれば、世界の広がりを感じられること。この2点を、ゲームやパネルディスカッションを通じて楽しみながら体感してもらう。
- 参加者：26名

#### 1. 分科会内容と成果・結果

活動内容	詳細
国際交流員の自己紹介	<p><u>各国の国際交流員の自己紹介</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4名の国際交流員が順番に、「名前」「出身国」「いつ山形に来たのか」「日本語を勉強したきっかけ」などの話を交え、自己紹介。</li> </ul>
参加者参加目的等を用紙に記入	<p><u>参加者が「参加目的記入シート」に記入</u></p> <p>（質問内容）・日本語が分からない、道に迷っている外国人にあったらどうしますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この分科会に参加した目的は何ですか？</li> </ul>
ゲーム（全員）	<p><u>ゲーム</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロフィール記入用紙（国際交流員の会話を理解するのに役立つキーフレーズ入り）を配布。（プロフィール）</li> <li>①好きな食べ物（日本人があまり知らないもの） ②兄弟姉妹 ③好きな科目と理由 ④将来の夢 ⑤宝くじが当たったら何を購入したいか ⑥自分にとって国際交流とは</li> <li>・最初にゲームのねらいを伝える。</li> <li>・参加者を3つのグループに分け、各グループに国際交流員を配置。</li> <li>・国際交流員が母国語のみで自己紹介をする。</li> <li>参加者は国際交流員に質問をしながら、国際交流員のプロフィールを作成する（ゲームの間、国際交流員は母国語のみを使用）</li> <li>・参加者が国際交流員から聞き取りをした内容をもとにグループごと国際交流員の紹介をする。</li> <li>・国際交流員が正解を伝える。</li> </ul> <div data-bbox="1066 1379 1497 1684" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は、中国語・韓国語のグループは苦戦していた様子だったが、グループ全体で、積極的に質問しながら、国際交流員の言葉を引き出し、国際交流員の身振りや絵なども参考にしながら、国際交流員のプロフィールの作成を行った。</li> <li>・はじめは、言葉が分からなくて国際交流員も参加者も戸惑っている様子があったが、部分の理解をつなげて、国際交流員の話している内容が分ってくると、お互いにリラックスして、賑やかに楽しくゲームができるようになっていた。</li> </ul>

<p>パネルディスカッション（全員）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者からの質問に国際交流員が答えた。</li> <li>・日本語を勉強したきっかけ、どうやって日本語を勉強したか、山形に来て感じたこと、山形の不便なこと・良いところなどの質問があった。</li> <li>・国際交流員が、自身の体験を元に、言葉の壁をどう乗り越えたか。乗り越えたことで、どう変わったかなどを紹介した。</li> </ul>	
<p>まとめ （張国際交流員）</p>	<p><u>まとめ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者に「参加目的記入シート」を見返してもらった。</li> <li>・「参加目的記入シート」に記載した内容と、分科会参加後の考えがどう変わったかを振り返ってもらった。</li> <li>・参加者には、いろいろな体験をして、自分の世界を広げてほしい。きっかけとして、県国際交流協会の様々な講座などをぜひ活用してほしいとPRして終了。</li> <li>・分科会の終了後は国際交流員が少し会場に残って、参加者からの個別の質問に答えた。</li> </ul>	

## 2. 参加者アンケート

参加者のご所属などについて(N=24)

教職員 (小・中・高・大学)	公務員	国際協力 交流団体	民間企業	中学生	高校生	大学生	その他
2	1	1	2	0	13	2	3

参加者の年代について(N=25)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
13	3	1	1	2	5

参加者のこれまでのフォーラム参加回数について(N=26)

初めて	2回目	3回目	4回以上
18	5	1	2

参加者の分科会への満足度について(N=26)

大変満足	満足	普通	あまり満足 できなかった	不満足
12	12	2	0	0

## 3. 担当者所感

【ミチコ ヨシノ（山形県国際交流室）】

英語グループの担当として参加しましたが、自分のグループ全員が英語の聞き取りが出来たため、担当の私と参加者で話をしまい、参加者同士の相談が無いまま進めてしまいました。もし、参加者同士で相談できたなら、もっと誤解をせずに理解を深めるような交流が出来たと思います。今後、同じようなイベントをする際は、

参加者同士が情報共有や交流をするための時間をもう少し作る工夫をしたいと思います。全体的には、2時間があったという間に過ぎて、とても短く感じました。分科会が終わってからも色々な方から質問を貰ったので、英語や異文化に関心を持っている人がたくさんいることがわかりました。国際交流に初めて興味を持つ入り口としてとても参加しやすい分科会だったと思います。

【土屋 紗都子（山形県国際交流室）】

ゲームを通じて、外国語が分からなくても、コミュニケーションができること。パネルディスカッションを通じて、文化を含めて相手を理解すれば、世界の広がりを感じられること。参加者の方には、苦戦しながら・楽しみながら体感していただいたと思う。また、目的を2つ設けたことで、各年代の参加者にも概ね好評をいただいた。こうした機会を通じて、国際交流員の活動について多くの方に知ってもらい、国際交流員を通じた国際交流の場の拡大につなげていければよいと思う。